

分野	授業教目名	単元名	単位数	時間数	履修時期	担当教師
基礎看護学	日常生活援助技術Ⅱ	食事の援助技術	1	13/30	1年次後期	小泉 真希子
テキスト(発行所)		基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)				
テキスト以外の教材、参考図書		看護技術 プラクティス 第3版 監修 竹尾恵子 (学研)				
学習のねらい	栄養を満たし美味しく食べることを大切にした、よりよい食事援助のための基礎的な知識と技術を学ぶ					
学習目標	1. 栄養や美味しい食事を支える消化・吸収の理解や環境、行為、味わいについて知る。 2. 様々な健康状態にある人に適した食事内容や方法を理解し、対象にあわせて必要な援助が出来る。 3. 安全に摂取するための食事、満足感が得られるような食事の援助が考えられる。					
学習スケジュール						
回数	主題	学習内容	履修形態 他			
1回	食事援助のための基礎的知識、食事の意義 食べる仕組みと意義	嚥下・消化吸収 栄養状態・エネルギー 水分出納	講義			
2回	栄養吸収と栄養のアセスメント 摂取の仕組みと栄養のアセスメント	嚥下・消化吸収 栄養状態・エネルギー 水分出納	講義			
3回	経口摂取できる患者の食事介助1 車椅子での食事介助の実際	食事環境 食事動作・姿勢 ※学校給食の注文	講義 演習(実習室)			
4回	特殊な栄養摂取の方法 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助	経腸栄養とは 援助の実際	講義 演習(実習室)			
5・6回	経口摂取できる患者の食事介助2 機能障害を持つ患者の食事援助の実際 視覚障害のある患者の食事介助 上肢機能障害のある患者の食事介助 病院の食事	機能障害に応じた食事介助の工夫と援助の実際 ※学校給食の注文	講義 演習(実習室)			
7回	食欲不振のある対象者への援助 栄養・食事と看護師の役割 まとめ	看護師の役割	講義			
単位認定	1. 日常生活援助技術Ⅱは、「活動・休息・睡眠の援助技術」17時間と本単元13時間の合計30時間で1単位の科目である。そのうち24時間以上の出席があること。 2. 「活動・休息・睡眠の援助技術」40点と、本単元30点、実技試験30点(別途提示する)の合計100点満点のうち、60点以上で合格とする。 本単元は、以下の内容で評価を行う。 1) 筆記試験 25点 2) パフォーマンス課題 5点 3. 1と2の条件を合わせて、日常生活援助技術Ⅱの1単位を認定する。					
受講上のアドバイス	美味しい食事をとることで満足感が得られたり、食欲が落ちると不安を感じたり、活力になるなど、食事は私たちに欠かすことのできない大切な日常生活です。十分な食事がとれないことで健康を障害されたり、病気や治療の影響などで味わいの変化するなど、食事に関する悩みを抱えておられる方は少なくありません。よりよい食事が摂れることで、エネルギーが得られ、治療や健康増進に向けることもできますし、不安を軽減することもできます。 この単元では、対象のよりよい食事のための援助技術を学びます。よりよい食事とは、どんな食事でしょうか？調理には直接関与できませんが、食べやすい環境づくり、方法、関わり方など工夫できることがたくさんあります。口から召し上がられる方ばかりが対象ではありません。どうしましょうか…などを学びます。 演習で看護師役と患者役のどちらも経験してもらいます。病院食の試食や経管栄養法など、一度きりの演習もあります。経験を通してでなければ、理解できないこともたくさんありますので、積極的に参加してほしいと思います。経験したことと、それに基づいて自己学習した内容を、ポートフォリオファイルに蓄積させて、これから先にも使える1冊に完成させましょう。					